

図書館できっかけづくり！子育て女性のはたらくを応援！！

嶋田 直美

札幌市中央図書館

## 1 札幌市の現状と課題

2022年に市制施行100周年を迎える札幌市は、自然と都市機能が調和する北海道の中心都市に成長した。まちは成熟期を迎え、市民は生活基盤の充足だけでなく、暮らしのうるおいやゆとりといった心の豊かさを求めるようになってきている。約197万の人口は（2020年4月現在）、主に道内他都市からの転入により増加したものだが、ここ数年のうちに自然減少数が社会増加数を上回り、減少局面に転じる見込みである。すでに減少している生産年齢人口は、2040年には2010年と比べ30万人以上減少し、労働力不足や市内総生産の伸び悩みが予想されている。

札幌市産業振興ビジョン（以下、「産業ビジョン」という。）によると、札幌市の産業構造は、全国の主要都市に比べて製造業の割合が低く、サービス業、卸・小売業などの第3次産業の割合が高いのが特徴である。また、従業員数が50名以下の中小企業が全体の96%以上を占めており、中小企業が札幌の産業を支えているといえる。

2015年に本市経済局が行った「1万社アンケート」によると、市内中小企業の抱える課題は「人材不足」が最も多く、それを受け改定された産業ビジョンでは、全産業を横断する3つの戦略として「中小企業の支援」「新たな企業の立地・創業の促進」「人材の確保と育成」を掲げた。

人材の確保と育成のため、札幌市は、ハローワークと民間業者が共同で就業支援を行う「就業サポートセンター」を設け、職業相談のほかカウンセリングやセミナー、職業体験などをワンストップで実施している。そのほか、各区に市とハローワークが一体となって実施・運営する職業相談窓口「あいワーク」を、また都心部に子育て中の女性を対象とした「ここシェルジュ SAPPORO」を開設している。また、情報通信関連産業が集積する札幌市の特性を活かしたクリエイティブ産業の創業や人材育成については、「インタークロスクリエイティブセンター」が担うなど、札幌市は様々なニーズに合わせた就業や起業を支援している。

## 2 札幌市中央図書館の概要

札幌市中央図書館（以下、「中央図書館」という。）は、都心から4km、路面電車で20分の文教地区に位置している。都心回帰による人口増に支えられ、子どもから高齢者、自習利用の学生や社会人など幅広い層に利用されており、令和元年度の来館者数は69万人である。

札幌市には、中央図書館をはじめ、地域に密着した地区図書館や区民センター図書室など47の図書施設がある。そのうち43か所がオンラインで結ばれ、市内どこでも予約や貸出・返却ができる。最近では、「えほん図書館」や「図書・情報館」など、特色ある図書館が新たに整備されているほか、来館不要の電子書籍もコロナ禍において急速に利用を伸ばしている。中央図書館はそれら図書施設のセンター機能を担うとともに、参考資料や札幌及び北海道に関する郷土資料なども積極的に収集しており、2020年4月時点の蔵書数は市内最大の87万点となっている。

### 3 中央図書館のビジネス支援の現状

現在、中央図書館で行っているビジネス支援は、レファレンスのほか、パスファインダーの作成、参考資料やデータベース（日経テレコン、官報、D1-Lowなど7種類）の提供などが挙げられる。一般的なアイテムは揃えているものの、ビジネス支援に取り組んでいることを積極的にアピールしていない。その理由は、2018年に開館した課題解決型図書館「図書・情報館」によるものが大きいと考えられる。

「図書・情報館」は、「はたらくをらくにする」をコンセプトに掲げ、都心再開発事業の複合施設内に整備された。最新設備や資料、関係機関との連携やセミナーの開催などにより、これまでに利用のなかった層へのアプローチにも成功し、着実に実績を積んでいる。その結果、Library of the Year2019の「大賞」と「オーディエンス賞」を受賞するに至り、このビジネスライブラリアン講習会においても講義の一つとして取り上げられるほどである。

図書館の予算が減る中、限られた資源で役割分担をしなければならず、家族連れや高齢者の利用が多い中央図書館の客層に対するビジネス支援の必要性と効果を考えると、自館で取り組む優先順位は低いものとなる。しかし、この講習会の講義の中で得た「最新のビジネス書があるからビジネス支援ができるかと言えば、そうではない。会社経営にはあらゆる情報が必要になる。ニーズがないのではなく、気がついていないだけ。」という言葉に、中央図書館だからこそ出来るビジネス支援の可能性を感じることができ、新たな支援の内容を検討した。

### 4 中央図書館の新たなビジネス支援

#### (1) 対象者

ターゲットを子育て中の女性とする。

生産年齢人口の減少により、若者・女性・高齢者の雇用促進が必要であると産業ビジョンは示しているが、その中でも図書館利用層と重なり、かつ労働力として大きな可能性を秘めているのは、子育て中の女性である。

「平成 29 年度就業構造調査」によれば、札幌市は、全国に比べ生産年齢にある女性の有業率が低く、就学前の子どもを育てる女性はさらに顕著である。しかしながら、子育て中の無業者のうち就業を希望する者は 64.0%と高い値を示しており、「働きたい気持ちはあるが働いていない」ことが明らかである。

| 生産年齢人口の女性(15-64歳) | 有業者      | 無業者      | 有業率   | 就業希望率※2      | 求職者率※3       |
|-------------------|----------|----------|-------|--------------|--------------|
| 札幌市               | 408,300人 | 225,300人 | 64.4% | 42.7%        | 18.0%        |
| うち子育て中※1          | 52,300人  | 42,800人  | 55.1% | <b>64.0%</b> | <b>17.8%</b> |
| 全国                | 2,573万人  | 1,181万人  | 68.5% | 37.4%        | 15.1%        |
| うち子育て中            | 404万人    | 225万人    | 64.2% | 60.8%        | 16.6%        |

※1 就学前の子どもを育てる者 ※2 無業者のうち就業を希望する者 ※3 無業者のうち求職活動を行っている者  
 <資料>総務省統計局 「平成 29 年度就業構造調査」

また、子育て中の女性の求職者率は 17.8%と、就業を希望しつつも求職活動に至らない人が多い。その理由としては、一番多い「育児」のほかに「希望する仕事がありそうもない」「知識や能力に自信がない」などがあり、一歩が踏み出せずにもやもやしている状況も浮かび上がってくる。

一方、札幌市は大学等の高等教育機関が集積しているため、高等学校卒業後の大学等進学率は男女ともに高い傾向にある。「学校基本調査令和 2 年度」によると、札幌市の女性の大学等進学率は 58.8%であり、男女含めた全国平均(55.8%)を上回っている。このことは、高い学歴や能力を持ちながら、それらを活かしていない人材がたくさんいることを示している。

産業ビジョンの基本施策においても「女性の創業促進」と「女性のライフスタイルステージに応じた就業促進」が盛り込まれている。家庭や育児と両立しながら、自分のペースでスキルや趣味を活かして働くことや、消費者ニーズが多様化する社会において、女性の視点を活かした新しいビジネスを展開することが期待されている。

経済産業省で女性起業家支援を担当する経済社会政策室の浅野氏は、J-net21 の特集で、女性固有の起業課題は、起業を決意する前にあり、従来の起業支援は起業準備中の人向けが多い一方、女性のニーズが多い初期段階での支援が不足していると言及している。

起業にも様々なフェーズがある。経産省ではフェーズ0から3まで、4段階に分けて考えている。「フェーズ0」は「起業という選択肢を知らない段階」、「フェーズ1」は「潜在的な起業志望者であるものの、まだ自分が起業すると決心できていない段階」。実は、女性固有の起業課題は、フェーズ0と1に多く存在している。

※従来型の起業支援は「フェーズ2」「フェーズ3」のことが多い。例えば起業の情報収集・法制度や手続き、創業資金の集め方を伝える、取引先を探すための商談会や展示会の開催など。

J-Net「経産省の女性起業家支援」ゼロ・イチと広域にこだわる理由

中央図書館で、ビジネス支援対象者を子育て女性とすることの意義は、この層が中央図書館の利用者層とマッチすることである。図書館の敷居の低さを生かし、利用者のフェーズ0や1にあたる“眠れる人材”に働きかけることで、本人すら意識していない潜在的な需要を掘り起こすことができるのではないか。

## (2) 具体的な支援の内容

子育て中の女性に対して、3つの就業・起業支援を行う。

### ① 就業・起業に関する情報提供

絵本や料理本など一般図書のコーナーに就業や起業に関する機関や団体、セミナー等のチラシ、関連図書などを配架する。

中央図書館でビジネス支援を担当するのは2階であるが、2階は郷土資料と参考資料など、利用者が限られており対象となる女性へなかなか情報が届かない。女性の利用者は1階の絵本コーナーや一般図書のコーナーを利用することが多いため、2階のメインとなるコーナーのほかに、1階の利用の多い場所に就業・起業に関するミニコーナーを設ける。

なお、子育て中の女性は働くことに対して、後ろめたい思いを感じがちであることから、「ついでに」「さりげなく」「こっそり」手に取れるよう工夫する。

### ② 出張相談会・セミナーの開催

関係機関の出張相談や、セミナーを開催する。図書・情報館が既に連携している団体（よろず支援拠点等）や、ここシェルジュ SAPPORO、産業振興センターなどを想定。

相談会やセミナーの開催日時は、子どもが学校や幼稚園等にいる時間帯である平日午前中や、家族で来館できる日曜日など、利用しやすい日時に配慮する。また、セミナー講師には、身近で手が届きそうなロールモデルを起用したり、セミナーと同じ時間帯に子ども向けのイベントを実施するなど工夫する。

### ③ 関係機関との連携

次に挙げる機関と連携し、必要に応じて紹介する。これらの機関には、中央図書館から一方的に利用者を紹介するだけではなく、それら施設の利用者に対しても図書館のビジネス利用についてPRし、相互に補完できる関係を築きたい。

### (3) 連携機関

#### ① ここシェルジュ SAPPORO

札幌市が開設した、子育て中の女性の就労等をサポートする窓口。JR札幌駅に直結する男女共同参画センター内にあり、働くことにまつわる様々な相談に対応するほか、履歴書を作成するためのパソコンなどの設備、無料の託児も用意されている。各区の子育て支援施設「ちあふる」等での出張相談の実績もある（現在はコロナ禍で実施見合わせ）。

中央図書館で定期的に出張相談を行うことで、働くことに興味を持つ人が増え、就職や起業に対する意識が高まれば、ここシェルジュで自然と次のステップに進むことができる。

#### ② 図書・情報館

札幌市の課題解決型図書館。日常的に各種機関が無料相談を行い、定期的にセミナーを開催している。商圈分析などのデータベースや業界新聞、専門雑誌も数多く取揃えており、就業や起業のための最新のビジネス情報を収集することができる。

図書・情報館がこれまで築いてきたノウハウや各種機関とのつながりを、中央図書館でも活かすとともに、図書・情報館で不足する資料（郷土資料など）を中央図書館が担うことで、長所を活かし足りないものを補うことができる。

#### ③ コワーキングスペース

事務所スペース、打ち合わせスペースなどを共有しながら独立した仕事を行う“コワーキングスペース”は、札幌でも増加しており、女性限定や託児所付きの施設もある。準備段階の利用や、起業時のオフィスとしてだけでなく、テレワーク利用も可能。交流会やセミナーなども行っている施設も多く、横のつながりを作ることができる。

札幌市が発行した「Co-Working Map2020」には、“情報BASE”として図書・情報館が紹介されており、インターネットだけでは得られない情報の拠点である図書館の役割が期待されている。

## 4 おわりに

本レポートでは、図書館における子育て中の女性にターゲットを絞った就業・起業支援について考察を行った。

女性が子育てしながら働くことが当たり前になりつつある現在においても、一旦キャ

リアをストップした後、望むように働くことは想像以上に難しい。橋本・宮川（2008）によると、非正規雇用の多いサービス産業が中心の大都市は、女性の就業率が低い傾向にあり、その一因は、保育の問題に加えて産業構造や雇用形態のミスマッチにもあるとしている。札幌に同様のことがあてはまるとすると、今回の支援では期待したほどの効果は得られないかもしれない。しかしながら、コロナ禍により働き方が大きく変化し、産業構造が変化する中で、新しいビジネスが生まれるチャンスは広がっている。図書館においても、子育て中の女性に限らず、これらのニーズを的確に捉えることができれば、ビジネス支援の可能性は高まるのではないだろうか。

図書館が何故ビジネス支援をするのか、行政職員である自分にとって目からウロコが落ちたのは「図書館で信頼性の高い情報を得た利用者が、地域経済や産業を活性化させることは、図書館が税金を使うだけの存在から、税金を生み出す場所になることを意味する。」という言葉であった。自館がもつ資源とは何か、市民が求めるものは何か、また、それらを活かしつなぐためにすべきことは何か、この講習会に参加して少しは考えることができたと思う。

最後に、熱意あふれる講義を受講し、全国のライブラリアンと交流できたことは、とても貴重な機会であった。改めて、事務局、講師の皆様、受講生の皆様に感謝申し上げるとともに、支えてくださった職場の皆様にも感謝したい。

#### 【参考文献・URL等】

- 1 第20回ビジネスライブラリアン講習会 配布資料
- 2 「(仮称) 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン策定方針」  
札幌市まちづくり政策局 2021.3  
<https://www.city.sapporo.jp/kikaku/vision/vision2/index.html>
- 3 「札幌市産業振興ビジョン改訂版（平成28年度～34年度）」  
札幌市経済産業局 2017.1  
<https://www.city.sapporo.jp/keizai/top/keikaku/vision.html>
- 4 「データで見る！札幌経済の動き Vol.118」札幌市経済産業局 2021.3  
<https://www.city.sapporo.jp/keizai/top/jyouhou/data/index.html>
- 5 一財) 札幌市産業振興センター  
<https://www.sec.or.jp/>
- 6 「札幌市の図書館2020」札幌市中央図書館 2021.7  
<https://www.city.sapporo.jp/toshokan/guide/sisin/liv/2020.html>
- 7 「平成29年就業構造調査」総務省統計局 2018.7  
<http://www.stat.go.jp/data/shugyou/2017/index2.html>

- 「平成 29 年就業構造調査」札幌市分 札幌市まちづくり政策局 2018.10  
<https://www.city.sapporo.jp/toukei/tokusyu/syugyoukouzou29.html>
- 8 「学校基本調査（令和 2 年度）」 文部科学省 2020.12  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm)
- 「学校基本調査（令和 2 年度）」北海道分 北海道  
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/013sbs/20.htm>
- 9 ここシエルジュ SAPPORO  
<https://coco-cierge.com/>
- 10 「Sapporo Co-Working Map 2020」 一財）札幌産業振興財団 2020.10  
<https://www.sec.or.jp/coworking/>
- 11 J-Net21（独立行政法人の中小企業基盤整備機構のポータルサイト）  
「経産省の女性起業家支援」ゼロ・イチと広域にこだわる理由  
<https://j-net21.smrj.go.jp/special/woman/180315.html>
- 12 「なぜ大都市圏の女性労働力率は低いのか ー現状と課題の再検討ー」  
橋本 由紀・宮川 修子  
独立行政法人経済産業研究所 RIETI Discussion Paper Series 08-J-043  
<https://www.rieti.go.jp/jp/publications/summary/08090001.html>